

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

網袋採苗と被覆網による新たなアサリ保護試験(松尾地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的・目標(指標)】

昨年度、松尾漁協、熊本市、当水産課と連携して、現場で実施可能な網袋を用いた採苗と被覆網を組み合わせた新たなアサリの保護手法の開発に取り組み、その有効性を確認した。今年度、松尾漁協がこの保護試験を主体的に開始することとなったため、当水産課は保護手法の改良に係る技術開発を支援し、改良することを目標とし、熊本市と連携して現地指導を行ったもの。

なお、本取組みは、水産多面的機能発揮対策事業を活用して実施した取り組みである。

【普及の内容・特徴】

松尾漁協の地先の鰐洞漁場と本漁場において、アサリ保護試験を実施した(図1)。

(1) 網袋採苗に係る現地指導

令和3年(2021年)5月、7月までの間、計2回、2漁場に計1,000袋の網袋の作製、設置に係る現地指導を実施した。

(2) 網袋採苗の効果調査

令和3年(2021年)6月から9月までの間、計6回、調査を実施。鰐洞漁場では7月以降大量死が発生し、生残率は1割程度となった。しかし、本漁場では9月までに約6割程度が生残し、漁場の違いで生残率が異なった。

(3) 被覆網設置に係る現地指導

令和3年(2021年)9月に計2回、アサリの生息状況調査を実施したところ、稚貝が多く確認されたため、被覆網でアサリを保護するように指導。4m×5m、2m×8mの小型被覆網を対照区に11枚、鰐洞漁場に被覆網を8枚設置した。

(4) 被覆網の効果調査

令和3年(2021年)10月から令和4(2022年)2月までの間、月2回程度、調査を実施。2月までの生残率は、本漁場では被覆網74.5%、対照区が14.6%、鰐洞漁場は被覆網27.2%、対照区8.8%と両漁場で被覆網の高い保護効果を確認した。

【成果・活用】

今年度、松尾漁協では、網袋を用いた採苗と被覆網を組み合わせた新たな保護手法の導入が始まった。保護試験に参加した漁業者から、保護手法の省力化に向けた意見が積極的に提案され、網の大きさを大型化(4m×10m)するなどの、独自の改良が行われた。さらに、12月以降、改良した手法で1,200m²の被覆網の設置が実施された。

一方、網袋による採苗は、漁場によってアサリの生残率に差が見られたため、次年度以降、収容密度や地盤高の違いによる検討が必要であると考えられた。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた(51~75%)

(様式)

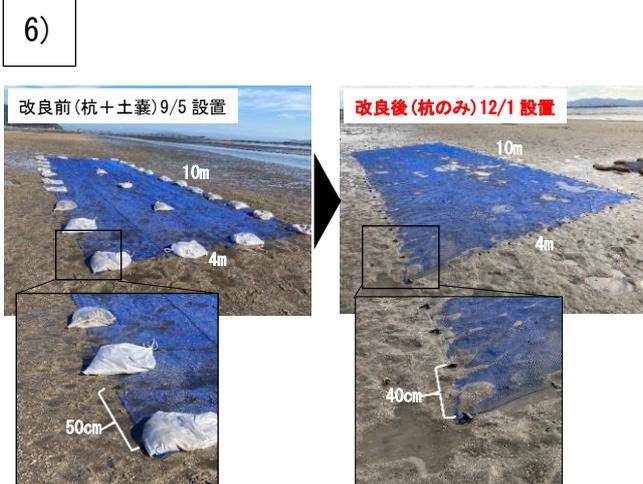
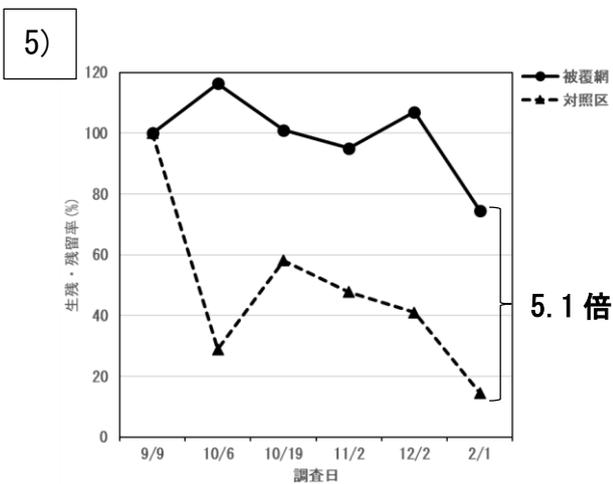
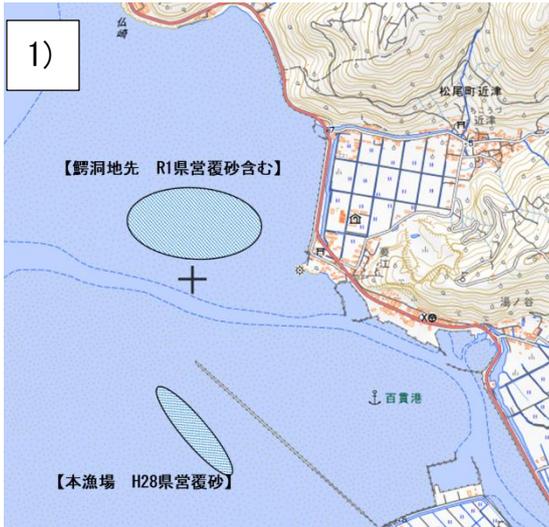


図1 調査漁場(鱧洞漁場、本漁場)
図2 網袋採苗作製の指導(鱧洞漁場)
図3 網袋の作製状況(鱧洞漁場)
図4 被覆網の設置状況(本漁場)
図5 被覆網下及び対照区の生残率の推移(本漁場)
図6 被覆網設置の省力化に向けた新たな手法